

ラグビーとともに生きる

みしまあいばん
三島藍伴さんインタビュー全文

企業で働き、その仕事のあとや休日にラグビー部での活動をされている三島藍伴（みしま あいばん）さんにインタビューをしました。

——お勤め先はどのような会社ですか？

京都にある島津製作所という精密機器を製造・販売する会社です。ものの強度や含まれている成分を分析・計測する機器や、医療で使うレントゲンの機器などがあります。

——その中で三島さんはどのような仕事をしていますか？

工場などの建物や設備を整える仕事をしています。工事する業者と依頼内容に関する打ち合わせをして工程を決めたりします。机でパソコンに向かってやる仕事もありますが、人とのコミュニケーションをとることが必要な場面が多い仕事内容です。

——直接ものづくりやその販売に関わっているわけではないんですね？

製造業の会社といっても、「さまざまな職種」があり、いろんな立場の方が協力して働いています。

——そこでラグビーの活動もされているんですね？

平日の晩2日、仕事が終わってからの全体練習と休日1日の試合や練習、あとの日は個人トレーニングをしています。部員は34名で、コーチなどのスタッフを合わせると50名ほどでチームを構成しています。

——ときどきテレビで観るような試合に登場されるんですか？

私たちの所属しているリーグは、テレビ放送はされていません。ラグビーをすることが仕事であるプロ選手がいたり、入場料を払ってお客さんが来たりするような試合ではなく、会社員などとして1日仕事をしたのちに活動している企業のラグビークラブが集まったようなリーグになっています。

——それでもラグビーの試合は激しいものですね？

プロ選手がいないといっても、みんな一生懸命身体を鍛えたり、チーム練習をしたりして試合に臨んでいるので、決して軽い気持ちで試合に出られるようなものではないですね。

——仕事をしたのちに、またラグビーのハードな練習をするのはしんどくないですか？

やはりしんどい時もあります。でもリーグ優勝してみんなで喜びたいという目標があるので頑張ることが出来ます。また、ラグビーをしていることは仕事にもプラスに、また仕事をしていることはラグビーにもプラスになるんです。

——それはどういうことですか？力仕事とかでない職種でも生きてくるのですか？

体力面だけではないですね。ラグビーで培った「精神」が仕事に生きる場面がたくさんあります。

——ラグビーで培った「精神」とはどのようなものですか？

ラグビーは、チームスポーツの中で最も人数が多い15人でやる種目です。たくさんのポジションがあり、それぞれに期待される役割があります。体重が重い人や背の高い人、反対に背が小さくてもすばしっこい動きができる人など、個性を生かしてプレーします。「みんなちがってみんないい」という言葉を実感できるスポーツです。これは仕事でも同じです。いろんな職種があり、いろんな個性をもつ社員とともに仕事をします。自分が得意なことで周りの方をサポートし、反対にできないことはサポートを得て課題を解決しています。目標に対して、自分の持ち味を発揮して貢献しようという精神はラグビーで培いました。

——他にも、ラグビーで培った精神が仕事に生きることはありますか？

ラグビーには、ラグビー憲章というものがあります。競技で大切にしている精神を5つの言葉で示したものです。「規律」「品位」「尊重」「情熱」「結束」の5つです。5つとも、仕事をする上でもあてはまる大切な言葉だと思っています。

——具体的なエピソードはありますか？

1つ紹介します。仕事をしていると、他の人と考えが合わないことが出てくる場面があります。私はAという方法がよいと思っても、ある方はBがよいというように。その時には、相手がどうしてそのような意見なのかをよく聴くようにしています。そして、最終A・Bどちらの方法に決まろうと、わだかまりを残さず、同じ目的に向かって取り組んでいきます。これはラグビー憲章の「尊重」に関わることだと思っています。ラグビーにおいても仲間と意見が分かれる時もあります。しかし、自分のもとの意見と違うものに作戦が決まったからと言って、自分だけ違うプレーを選択してはチームとしてよい結果は出ません。

他にもラグビーには、トライをしたかどうか、反則かどうかを判定するレフリーがありますが、その判定にも従う気持ちが必要です。自分の感じた判定と違ったとしても、その判定を「尊重」し、受け入れてプレーを続けなくてはなりません。

また、相手への尊重の気持ちも必要です。ラグビーには「ノーサイドの精神」というものがあり、身体をぶつけあって戦った相手とも試合が終われば敵・味方ということではなく、相手のプレーをたたえます。

「尊重」というものをラグビーで意識しているからこそ、仕事でも仲間の意見を大切にし、目的に向かって前進していくことができていると思っています。

——「ラグビー憲章」と日ごろ生活を重ねて考えられているんですね。

そうです。他の4つの言葉についても、それぞれ仕事の場面で活かしていると感じる場面があります。

——仕事をしていることがラグビーに生きているという話もありましたが、それはどんなことですか？

ラグビーにかけられる時間はたくさんある訳ではありません。仕事で培った計画性や判断力を生かし、その限られた時間で有効にトレーニングし、成果を上げようとしています。

「素晴らしい仲間と出会い、思いっきり身体を動かし、同じ目標に向かっていく。」仕事の他に、ラグビーにも情熱を注げることは、自分の人生を豊かにしてくれていると思っています。限られた時だからこそ、それぞれの時間を大切に過ごしています。

——今日はお話を聴かせていただき、ありがとうございました。